

日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.28

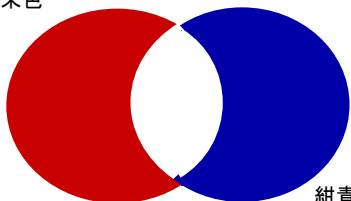
일한 시민 네트워크・나고야

2005-2-12

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行 者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



目次

- | | |
|----------------|-----------|
| 1. 事務局通信 | 統括幹事：後藤和晃 |
| 2. ニュース | 事務局 |
| 3. 会の活動報告とお知らせ | 事務局 |
| 4. 「懐かしの済州島」紀行 | 参加者の皆さん |
| 5. 会員の広場 | 会員の皆さん |
| 6. ソウル便り | 二日市 壮さん |

紺青

◇ 事務局通信

事務局 統括幹事：後藤和晃

(1) 盛大だった“留学生を励ます”日韓新春交流会 ～ 剰余金でさらなる交流事業を！ ～

1月16日(日)の夜、名古屋韓国学校の2階教室は、大勢の人で溢れていました。私たちの会がこの日、韓国の留学生を励まそうと新春交流会を、スシ・パーティの形で開いたのですが、予想をはるかに上回る人たちが参加していたのです。一ヶ月前に事務局グループが想定した数は確か65人でした。ところがこの夜は留学生30人をはじめ、こども、日本人学生、在日の方々、本会員など合わせて107人もの人々が教室を埋め尽くし、賑やかに交流することになったのです。



今回のパーティはインド洋大津波の後とあって、派手な出し物はなかったのですが、留学生会長のイ・スンフン君が弾いたピアノが大好評でした。彼は去年、韓流をまき起こした“冬のソナタ”とベートーベンの“月光のソナタ”の

メロディ2曲を華麗なタッチで弾いてのけ、満場の大喝采を浴びました。

スンフン君のピアノの効果は絶大で、会場では留学生も日本人それぞれが百年の知己のように打ち解け、会話を楽しんでいました。

今年は日韓両国が友好な関係を取り戻そうと1965年に日韓基本条約を結んでから、ちょうど40年という節目の年にあたります。その年の初めにあたって、あのように素晴らしい交流の集いを持つことが出来た事を喜びながら、この会の実現のために様々な支援を惜しまなかった方々に対し、心からのお礼を申し上げます。

寄付金を寄せられた方は中日新聞相談役の横内恭さんをはじめ、韓国総領事館の柳領事など45人、総額は19万5千円にものぼりました。また様々な品を寄贈していただいた方も10人にのぼりました。そのうち、韓国学校の名誉理事長の鄭煥麒さんからは自著50冊を、また岩手県盛岡市にお住まいの全龍福さん(螺鈿・漆器作家で韓国の人間国宝)からは、大玉の岩手リングを2箱も送っていただきました。このように寄付された皆さん全員のお名前は別項にて改めて報告し、感謝の気持ちを伝えたいと思います。

最後に、1月16日の交流会では、**17万6千円**もの剰余金が生じたことを御報告せねばなりま

せん。その背景としては、寄付金や参加者が多かったことに加え、元スシ屋の中川修介さんが2日半を費やして、マグロ類の買い付けから解体、握りまでこなして、最小限の費用で最大限のスパーティを実現してくれた事をあげなければならないでしょう。

いずれにしても17万6千円という貴重な資金を得て、日韓条約40周年という節目の年にふさわしい交流事業を、多彩な形で実施したいと考えています。



(2) メールマガジン【東海地方日韓ニュース】配信へ

2005年がスタートしました。今年は愛知万博、中部新空港開港と、地元においても目玉の多い年ですが、日韓関係におきましても過去、1905年の乙巳保護条約から100周年、1945年の韓国独立から60周年、1965年の日韓条約から40周年など、大きな転機を迎えた出来事の節目を迎えます。2002年のW杯共催、そして昨年の冬ソナをきっかけとした韓流ブームと、年々拡大し続ける両国の交流は、地元東海地方におきましても確実な広がりを見

せています。

地元における日韓草の根交流の一翼を担う当会としましては、日々日韓交流のために尽力しておられる皆様からのご協力をいただきつつ、さらなる活動拡大をめざし、地元の皆様に日韓交流の様々な分野の具体的な情報を迅速にお届けするための媒体として、メールマガジン

【東海地方日韓ニュース】の配信を検討しています。

『メール会員』という新しい範疇を設け、購読者を募ります。

内容：愛知・岐阜・三重・静岡の東海4県＋滋賀県で行われる

韓国関連のさまざまなイベントや企画の情報を中心にお届けします。

<例>

歴史文化講演会、映画上映会、韓流スターライブ情報、物産即売会、サムルノリ出演、料理食べ放題キャンペーン、交流ツアー、韓国語教室開講、等の情報。

日韓交流関連の地元のエピソードも折に触れて紹介します。

頻度：当面は月1回とし、適宜配信回数を増やす方向です。(号外もあり)

会費：1,200円/年

当会の一般会員、学生会員、留学生会員の皆様には、無料配信します。

開始までの予定：まずは試験的に会員の皆様限定で、2月初旬より配信致します。

3月の総会で正式に決議したうえ、立ち上げ、ホームページ上で告知し、4月から一般向けに配信を開始します。

皆様へのお願い：

当会事務局のメルマガ担当者・東（higashi@mits-net.ne.jp FAX：052-212-0324）まで、上記のようなメルマガの内容に相応しい情報を随時お送りいただきたく存じます。皆様が取り組まれる様々なイベントやご企画を多くの人々に紹介するための手軽な無料媒体として、当会のメルマガ配信をご活用いただければ幸いです。

※ 関連のお知らせ

“東海地方”日韓ニュースの配信開始に伴い、従来から、一部の会員を対象に行っていた「電子メールによるお知らせ」は日韓ニュースの中に、吸収、統合することとします。

この電子メールによるお知らせは、郵送料等の節約を目的に事務局の1人武田氏の担当で行っていたものです。これまで一定の成果を上げてきましたが「日韓ニュース」創設に伴い、その中に統合する

ことにしました。これまで、電子メールで会報やお知らせの、サービスを受けていた会員には、今後「東海地方・日韓ニュース」を配信しますので、ご安心下さい。

ニュース人

このページは、新聞や雑誌あるいはホームページなど、当会に関係があるニュースを掲載しています。皆さんが、お気づきになったニュースがあればお知らせください。

○ ハングル@ホームステイ



当会会員の武井先生が高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク (<http://www.iie.ac.kr/~jakehs/>) のプロジェクトから、新しい本を出しました。「ハングル@ホームステイ」という本が出ました。

韓国に修学旅行などでホームステイをすることを想定して場面を選び、単語を中心に 1000 語ほど載せてあります。まったく韓国語が分からない人を対象にしているので、文章を

作ることとはできないことが前提です。そのために端的に単語を発音すれば通じるように考えて作りました。カタカナ表記を中心にしてありますが、言語をやっている人の発想で、それまでにないカタカナ表記になっています。でも、カタカナ通り発音したら、何となく相手に通じた（実験済み）という形になっています。もちろん、高校生しか使えないものではなく、一般の人でも十分使えます。韓国へのホームステイだけでなく、国内の交流などでも十分使えると思います。白帝社から 700 円です。

詳しくは武井先生のホームページ (<http://jns.ixla.jp/users/hajimet364/index.html>) で紹介しています。合わせてご覧下さい。

○ 韓国で故水崎林太郎翁の追慕祭挙行へ

～ 4 月 5 日・大邱市寿池 ～

韓国・大邱市で戦前、水不足に悩む農民のため、大貯水池（寿城池）を建設し、250 万坪もの美田を拓いて大邱農民の恩人とうたわれた岐阜市出身の故水崎林太郎翁の追慕祭が 4 月 5 日、墓のある寿城池の辺りで挙行されます。

主催するのは大邱市寿城区と水崎翁の墓を一族で守り通してきた徐彰教氏（韓日親善交流会・会長）です。追慕祭には現地の人たちに加え、日本からは私たちの会員でもある水崎元宏

さんなど子孫の人たちをはじめ、在釜山日本総領事館の阿部総領事、岐阜市の細江市長、市議、ロータリークラブ、桜を植える会など 100 人を越える人たちが参加する予定です。

当日は大邱の僧侶が読経する中、参加者が翁の墓前に白菊を手向けた後、桜を植える会の人たちが墓に通じる道の両側に桜の木を 10 本植えることになっています。

○ 万博 “韓国の日” は 5 月 11 日！

愛知万博（2005 年日本国際博覧会協会）が 3 月 25 日（金）に始まりますが、韓国政府は今年が日韓条約の締結 40 周年で日韓友情年であることもふまえ、万博会場で韓国の魅力を最大限に伝えようと準備を進めています。万博の期間中、参加した各国はそれぞれにナショナルデーを設

けることになっており、韓国のナショナルデーは 5 月 11 日（水）に決まりました。詳しい内容は未だ発表されてはいませんが、この日は目にも鮮やかな韓国の色彩美を印象づけるショーや、この上なく優美な伝統舞踊など魅力的なアトラクションの数々が披露される模様です。ぜひこ

の5月11日には会場に出かけたいものです。

なお、未確認情報ですが、万博の開幕にあわせ、3月24日から25日にかけて、アッと驚くような韓国のスターが名古屋にやってくるのでは…

という観測があります。本当かどうか気がもめる所ですが、注目していきましょう！

愛・地球博公式HP:<http://www.expo2005.or.jp/>

◇ 会の活動報告とお知らせ

1.報告

1) ワールド・コラボ・フェスタ2004

10月31日(日)に名古屋市栄のもちの木広場周辺で行なわれたワールド・コラボ・フェスタで当会を紹介するブースを出しました。当日は時折小雨が降りましたが無事に終わることができました。韓国観光公社から頂いた韓国のパンフレットと当会の概要書をブースに訪れた人に配布。また、チヂミの販売も好評でした。

2) 裏木曾の秋を遊ぶ

交流リーダーの三尾・土本夫婦による毎年の恒例行事が11月6日(土)7日(日)と二日間行なわれました。今年は一泊二日でゆっくりと楽しんできました。例年不思議と天候に恵まれ、紅葉の美しい裏木曾を散策し、芋煮パーティーでお腹を満たし、夜はゆっくりと語り合いました。



3) “留学生を励ます” 日韓新春交流会2005

これに関しては、本会報の事務局通信並びに別項の報告で記述しておりますのでお読み下さい。

4) 懐かしの済州島紀行

これに関しては、別項の参加者の感想文を記述しておりますのでお読み下さい。

5) わいわいクラブ活動休止

約1年間、日韓の若者の交流を目標として活動していた「わいわいクラブ」ですが、運営が難しくなり活動休止となりました。また、再開できる状況になったらお知らせいたします。

2.お知らせ

1) 年会費納入のお願い

毎年2月から3月にかけて、会員の皆さんには年会費の振り込みをお願いしています。今回は2005年度の会費を納めていただくわけですが、一般会員の会費がこれまでの3,000円ではなく4,000円になりますので、ご注意とご理解をお願いします。この措置は過去7年、金額自己負担としてきた事務局の行動費・旅費の一部を今後は認めていこうと昨年の総会で了承されたものです。

会費改訂するのは一般会員のみで、学生会員2,000円と特別会員(留学生)1,000円についてはこれまで通りとさせていただきます。

例年のように会費の振込用紙を同封しますので、郵便局より 2 月 28 日までに振り込んで頂くようお願いいたします。なお振替用紙を失くされた方は、下記の口座に振り込んでください。

口座名	日韓市民ネットワーク・なごや
口座番号	00830 4 36485

2) 第 8 回総会を開きます！

第 8 回総会を下記の日程で開きます。1 年間の会の行事を決めるほか、魅力的な講演や会員同志の交流を図る懇親会もありますので、多くの会員の参加をお願いします。総会及び懇親会への参加の可否を同封のハガキに記入し、2 月中にポストにお入れください。

日時	3 月 27 日
場所	名古屋韓国学校 2 階教室 ※地下鉄東山線亀島駅 2 番出口から北西へ徒歩 3 分
スケジュール	14:30～16:00 総会 16:15～17:00 講演 ※講師は二日市壮氏 大分県出身・元 NHK 記者歴 30 年 KBS ラジオ日本語放送でキャスターを 8 年 韓国生活 10 年
テーマ	KBS ラジオ・日本語放送キャスターが見た日韓関係の 10 年 ー“韓流”の背景は？“日流”は起きるのか？等ー
17:30 懇親会	場所未定
参加費	4,000 円程度を予定 学生 3,000 円 留学生 2,000 円

3) ”山の辺の道” 歴史・万葉紀行

飛鳥・奈良時代に開かれた“日本最古の国道”といわれる山の辺の道を、会員・留学生ら 40 名余で歩きます。山の辺の道の周辺は、まさしく日本の古代王朝が成立した土地、この道を歩いた歴史上の人物や彼らが歌い上げた万葉の数々を偲びます。

日時 3 月 2 日（水）朝 7 時半集合（参加者は各自弁当を持参！）
集合場所 JR 名古屋駅西、新幹線口から北へ 260m の道路脇に、名鉄西部観光のバスが待機中
コース 桜井市・伝教伝来の碑からスタート→大神神社→崇神天皇陵→長岳寺→
トレイルセンター→石上神社

募集終了ー参加者の募集は既に終わりました。次の紀行に参加下さい。

4) 新会員紹介（敬称略）

前回の会報編集以降に入会された方で、1 月 31 日までに受付完了されている方々です。（敬称略）

山本 未知	久田 光政	西川 友子
鄭 絵理	沼野 健司	水谷 吉晴
尹 ナリ	浅野 道子	成 功

これらの新入会員の方々には3月27日（日）の第8回総会の時に自己紹介をしていただきます。

☆日韓新春交流会 報告事項

韓国の留学生招き親ぼくパーティー
中村で市民ネット
「日韓新春交流会」が十六日、中村区井深町の名古屋韓国学校で開かれ、韓国から名古屋に来た留学生ら約百人が出席。立食形式のパーティーで親交を深めた。
市民団体「日韓市民ネットワーク・なごや」が一九九九年から開く催しで、参加者は名古屋市や近郊に住む両国の人でつくる同ネットの会員が中心。「せっかく日本に学びに来た留学生に、日本人の友達をつくってもらおう」と、来日して間もない韓国人留学生ら約三十人を招待した。
あいさつに立った鄭煥麒（チョン・ハンキ）愛知韓国学園名誉理事長（へこ）は「両国の国交が正常化されてから、今年でちょうど四十年。留学生の皆さんは目標を百パーセント達成できるように努力して、日韓交流を進めてほしい」と話した。

中日新聞朝刊（2005年1月17日付）に新春交流会の記事が出ました。

1) 新春交流会 収支報告

収 入	会費			支 出	料理・飲み物	180,000	※ 残金は当会の活動資金として繰り入れます。
	会員	42名	126,000		お酒・お菓子	14,212	
	会員外				会場の飾り付け	3,000	
	大人	3名	9,000		偲ぶ会お菓子	1,500	
	大学生	10名	20,000				
	中・高生	2名	2,000				
	小学・幼	3名	1,500				
	留学生	24名	24,000				
	寄付金合計		198,000				
	計		380,500		計	201,212	差引残高 ￥179,218

2) 新春交流会に関わる行事の寄付金と差入れ（支援者名は敬称略、あいうえお順）

ご寄付者のすべての方に領収書を発行しておりませんので、領収書の代替として記しております。
もし間違いや記入漏れのある場合は事務局までご連絡下さい。

寄付金

浅井 郷士	5,000	佐々木 英之	1,000	成瀬 一男	7,000	顧 問	
池田 進	3,000	鈴木 一字	5,000	野村 哲	3,000	尹 大辰	10,000
伊藤 義郎	3,000	須田 奈保美	2,000	早川 潤	2,000	招 待 者	
井上 辰郎	3,000	瀬尾 文子	2,000	林 清重	5,000	横内 恭	20,000
岩田 隆司	2,000	千 浩美	3,000	原 和夫	2,000	柳 聖 杰	10,000
鶴飼 満	5,000	田口 良浩	2,000	牧野 司	5,000	成 功	10,000
太田 道子	5,000	田澤 満	3,000	増田 一夫	3,000	姜 裕 正	3,000
岡崎 洋子	1,000	崔 崇浩	2,000	水野 陽子	3,000	会 員 外 寄 付 者	
大西 さおり	2,000	全 龍福	3,000	安田 守	3,000		
加藤 勝	2,000	土岐 良文	3,000	山田 あき子	3,000	朴 美 姫	5,000
神谷 信明	5,000	中川 修介	2,000	吉川 範和	3,000	百田 英子	10,000
小西池 実	3,000	長澤 進	7,000			鈴木 聡一	3,000
堺沢 一生	2,000	長田 竹子	2,000			伊藤 修造	10,000
人員数	顧問・会員：37名 招待者：4名 会員外：4名					合計金額	198,000

現金以外の寄付

鄭 煥 麒	著書「在日徒然抄」50冊	後藤 和晃	日本酒2本、柚子茶2個
石原 俊洋	ワイン		中国菓子1個、中国酒1本
伊藤 みつ子	ビンゴ景品	須田 奈保美	ビンゴ景品
大久保 舜司	おつまみ	全 龍 福	リンゴ2箱
太田 道子	ちごのいわ（酒）	土本 美恵子	ビンゴ景品

小坂井多恵子	ジュース等、キムチ、ビンゴ景品	宮本 昌子	お飾り 他
後藤 容子	かまぼこ	韓国観光公社	ぶどう酒1本、カレンダー多数

寄付金や物品、また、料理や飾付け、進行、受付などたくさんの方々のご協力ありがとうございました。



「黒潮の三多島 懐かしの済州島」紀行 —— 参加者の感想文

○済州島を旅して —— 会員：伊藤 義郎

今回は、今までとは少し違った思いの残る旅でした。

モンゴル軍に最後の最後まで抵抗して消えていった、三別抄軍の抗蒙遺跡、旧日本軍の最後のあがきともいえる特攻基地跡、そして悲惨な四・三事件がそうさせたのだと思います。他民族の侵略、戦争、同胞同志の殺し合いなど人間のもつ悲しい業の一端を垣間見た感があり、冬の雨が一層私の気持ちを重くしたのでしょう。

もともと私にとっての済州島は、友人から聞いたゴルフの話、菜の花畑ウォーキングの旅行広告で知った程度で、どちらかといえば明るいイメージのリゾート地としての島でした。そして済州島は「三多」の島ともいわれているということでした。

「三多」とは、「石多シ、風多シ、女多シ」の意味。石については確かに火山の噴火でできた島だけに、全てとっていいくらいに玄武岩などの溶岩で、塀や敷石いたる所で使われているのを見ました。風は旅の三日目に体験しました。サングムプリの噴火口跡を見学した時は、立っているのがやっとぐらいの強い風でした。丁度、台風27号のあとで東京で瞬間風速が40mを超えた日でした。「女多シ」は、済州島の人口構成、男女数を聞く機会を失ってしまったので本当のことはわかりません。ただ土地の人が云っていたのが耳に残っています。この島の離婚率は50%だと。私にはそれだけ女性に経済力がつき、自立心が強くなったのではとも思いました。女多しは今では女強しではないかとも思いました。女多しは今では女強しではないかと理解しました。

この「三多」をはじめとして、済州島を特徴づける「三」のついた言葉があるのに気づきました。

「三災」。これは「山高くして風災多し、谷深くして水災多し、土薄くして旱災多し」で、自然災害の多いという意味。李氏朝鮮時代の十五世紀に済州島民への免税理由に使われたそうです。

「三無」。韓半島にあって済州島にないものは、「乞食が」いなく、盗人がいなく、そして門が無い」ということです。私達がこの旅で見た門のかわりに杭を二本立て、その間に1m半か2mの棒を三本置き、その置き方で「留守」とか「在宅」のサインにしているといいます。留守のサインを出すなど泥棒のいないことの何よりの証拠でしょう。残念ながら現在ではそうではないとのことでした。

「三姓穴」。ここは私達も訪ねた場所。三人の神が小さなくぼみから出てきて、やがて日本ではないかといわれる東海の「碧波國」の三人の姫と結婚し、高家、良家、夫家の祖となって島を繁栄させていったといいます。神話の中にも真実のカケラがあり、何らかの伝承そして意図があって創られ伝えられたものと思います。もう少し勉強してみたい話です。

「三」にまつわる話がつい長くなりましたが、今回の旅で印象に残ったのは、先にあげたものの他に、法華寺と観音寺があります。法華寺の庭園を造営されるために日本から来ておられる在日韓国人の教授のお話。又幻想的だった観音寺の参道。すっかり落葉した冬木立を通り抜ける参道の両脇には、百体以上はあろうかと思われる如来座像が奈良の春日大社の燈籠のように雨と濃い霧の中に墨絵のごとく並んでいました。もの音一つしない幻想的な世界に思わず立ちどまってしまいました。

旅には雨がつきもの、雨の日でなければ味わえない自然や思いがありますが、次回済州島を訪ねる時は、おだやかな天気であり漢拏山が展望でき、済州国立博物館でもう少し済州島の歴史や民俗について知りたいと願っています。

特攻の基地に挽歌の冬の雨
4・3の塹壕悲し霧の寺

義郎

○“懐かしの済州島紀行”に寄せて —— 会員：安由

守

12月3日から3日間の「懐かしの済州島紀行」に参加させて頂きました。今回も後藤さんに勉強会を開いて頂き、昭和23年に起きた四・三事件も含め、済州島が今までの幾世紀に亘って被って来た受難の歴史や倭寇との関わり等を、多くの資料を頂いて学習する事が出来ました。

おかげで、勉強会で得た予備知識を持っでの旅行となり、今まで抱いていた済州島が只の観光地と言う既成イメージを捨てる事が出来て、現地で聞くガイドさんの説明にも深みを感じ、本当に中身の充実した大満足の旅でした。旅の中で色々と感動したり印象に残った事が沢山有りましたが、その中の幾つかのエピソードを列記させて頂きます。

2日目の昼食は、たれに漬け込んだ“黒豚のカルビ”「テジ・ヤンニョム・カルビ」でした。厚さが1cmは有ろうかと思われる、草鞋の様な大きい肉塊を豪快に鉄で切って貰いながら焼いて食べた黒豚肉の美味かったこと、脂肪が少なかった事もあって一年分を1食で平らげてしまった様な感じでした。それに日本の茶碗蒸しに似た「ケラン・チム」は頬っぺたが落ちる程で、韓国の美味しい食べ物は、幸い物ばかりでは無い…言う事も今更の様に実感しました。

午後ロッテホテルの免税店に立ち寄った時、入口に立てゝあったペ・ヨンジュンの等身大写真看板の隣に、日本人女性観光客（中には男性客も）が先を競う様に並んで記念写真を撮っていました。それを側で見ていた我々男性達は「ヨン様だけが男と違うぞ！」とやっかみながらヨン様談義に花を咲かせました。

法華寺では、16歳で日本へ密航し北海道大学で植物学の教授までなされ、現在は韓国へ戻られて法華寺の造園の仕事をして居られる金先生のお話を聴きました。「鎌倉時代、元寇の前に蒙古軍が済州島を制圧して、その島に多く自生し高級な碁盤の材料にもなる榧（かや）の大木を伐採して沢山の船を造り、日本への侵攻に備えた。」という話に、“あーそうだったのか！”と大いに納得しました。

また「撫（ぶな）の木が持つ保水力は非常に大きく、大雨の時には1本の木がドラム缶2本分位の水を蓄えて、太陽が顔を出すまでは放出しない。その様な植物の持つ特性を活かしながら法華寺の造園を進めて行きたい。」と言われたのを聞いて、日本の今までの治山治水方法がど

こかで間違っていたのではないかと疑問に思った事でした。

天帝園へ行った時は、楼閣の梁に描かれた7人の若くて美しい天女が、天帝淵瀑布の滝壺で沐浴する絵を見ながら、「仙人が其れに見ほれて滝壺に落ちたと言う話がある」と聞き、韓国にも日本の久米仙人と似た話が有るのだな…と微笑ましく思いました。

その日の夕食会では、済州日報論説委員の金奉信さんが挨拶の中で話された「ヨン様を象徴とする韓流ブーム現象は、韓国が日本文化の流入を解禁した中で起きた突然変異と言って良い。高等生物での突然変異の割合は100万分の1と、非常に確率が低いと言われているが、今回はそれをヨン様が起こしたと言う事になる。しかし見方を変えれば、“日韓市民ネットワークなごや”などの団体が永年に亘って努力して来た日韓文化交流の促進活動がやっと報われて来て、必然的に起きた現象とも言える。」との言葉に、一寸こそばゆい思いをしました。

3日日は風速20m/secは有ろうかと思うほどの強風の中での観光でしたが、ガイドの金京美さんは「風で有名な済州島では、この程度はそよ風です。」と、さざりと言っただけで済みました。また「島の女性は貧しいが故に強い自立心が育まれて来た。」とか、「それが為か離婚率は50%にも上る。」と言う説明に妙に感心させられるなど、済州島の風習・風土や歴史、文化を勉強しながら歩いた大変楽しい旅行でした。

最期に、毎回の事ながら後藤さんの企画の素晴らしさと、会計を担当された伊藤さん・今村さんのご苦勞、及びご一緒して頂いた皆さん方のご親切に心から感謝申し上げます。



○ “懐かしの済州島紀行”に参加して

会員：岡崎 洋

子

10年ほど前、長崎駅前の「済州島まで快速艇

で3時間（だったと思う）の案内板に目が釘づ

けになったことがある。その済州島への旅に参加した。

済州島で见たいもの、聞きたいことは3つあった。1つは“韓流”に関すること。2つは15年戦争末期の日本軍の痕跡（日韓合作ドラマに特攻機の格納庫がある場所が映されていた）。3つ目は4・3事件に関することである。

ミーハーおばさんとしては、ドラマ「オールイン」の舞台になったロッテホテルのカジノをのぞくことができたし、映画「恋風恋歌」のロケ地牛島をのぞむこともでき、満足であった。

特攻機の格納庫の数は想像していたよりはるかに多く、畑の中、どこまでもどこまでもある感じだった。数年前宮崎でも見たが、比較にならない。人間魚雷「回天」を収容する洞穴ともども、日本がこの地で、アジア各地で、人々に何をしたのか考えさせられる痕跡であった。

抗蒙遺跡の見学では、子どもの頃読んだ世界歴史物語を思い出した。そこには蒙古襲来を撃

退できたのは、日本だけの力ではなく、高麗や南宋の人々の力も与っているとあった。はるか昔の日韓民衆の連帯のあとを見ることができた。

さて一番の関心事、4・3事件関連だが、大静で慰霊碑を離れた所からではあったが見ることができた。また観音寺でも犠牲者の墓（？）を見た。しかし4・3事件を辿ることを目的とした旅ではなかったから、それ以上見ることはできなかった。もっと勉強してからもう一度来て、見たり聞いたりしたいと思った。

済州島名物の“風”に吹きまくられたことも、見学した場所のすべても、豚カルビや海鮮チゲなどの食物も、ガイドさんをはじめ出会った全ての人たちも……何もかもまたこの地を訪れたいと思うものばかりだった。

この旅を企画実施してくださった、後藤さんをはじめ、事務局の方々や、旅の間お世話になった同行の方々に、深く感謝して、この文を終えます。

○趙文富先生に就いて

会員：長澤 進

済州島を訪れた最後の日、日韓市民ネットワーク・なごやの私たちと当地の韓国の方、歴史学者、報道関係の方、との会食を遅くまで楽しく致しました。ビートたけしの映画、“血と骨”の会話の指導をされた韓国の方も同席していました。

たまたま小生の右隣に座しておられた趙文富先生は話に花が咲き、さすが前済州島の大学総長だけあり、蘊蓄（うんちく）のある会話を楽しましました。70歳を過ぎても矍鑠（かくしゃく）とされ、ソウル大学を卒業後長年ご生地の済州島に住まれ、その間東大エール大学にも遊学され政治哲学の泰斗（たいと）です。

以前、創価学会の池田先生とも長い対談をされ韓日の文化交流には多大の尽力をされています。日本の留学生を受け入れ、語学研修にも熱を入れられていました。帰りには私たち団員には地方自治体に関する行政体系の力作を二冊も贈呈されています。又皆に海苔を土産に頂きました。帰られてからもメールの文通が続き、先生の御著書までお送り頂き恐縮しています。正

に韓日交流の架け橋になられている大家だと信頼の厚い先生です。何時も写真に見られるおりには笑みをたたえ人格円満な恵比寿様のような風貌で、在学中には多くの学生に多大の人気があったと想像されます。

今回こんな素晴らしい人脈を発掘していた日韓市民ネットワークには、改めて敬意を示したいと思います。



회원 마당 会員の広場

○「日韓サッカー 2006年ドイツへの道」

会員：大西さおり

皆さん、明けましておめでとうございます。
日韓のサッカーファンにとって今年一番の関

心事、それは2006年にドイツで行われるワールドカップ出場権を賭けたアジア最終予選で

しょう。一次予選を勝ち抜いた8ヶ国が二組に分かれ、2月から8月にかけてホームアンドアウェイ方式で対戦します。

アジアの出場枠は前回より増え、4 or 5（各組上位2チームと、3位同士の勝者による北中米カリブ海4位とのプレーオフ）となりました。日本と韓国は幸運（？）にも別組になりましたが、アジア各国のレベルアップとともに厳しい戦いが予想されています。

2002年の日韓W杯では両国とも好成績を収め、それを機に海外でプレーする選手も増えるなど世界にもようやくその力を認められつつあります。ドイツW杯ではその真価が問われるのですから、両国にとって本大会出場はもちろん最終

予選での戦いぶりが重要となるのです。

さて、昨年は「韓流」が大きな話題となりました。しかしJリーグでは以前から韓国の選手が数多くプレーしており、「韓流」はすっかり定着しています。2002年W杯で韓国躍進の原動力となったパク・チソン選手（当時京都パープルサンガ所属）のように、次代のスターがJリーグから現れるかもしれません。今年はJリーグの韓国人選手にもぜひ注目してください。

もちろん当会としては韓国Kリーグにも目を向けていきたいところです。韓国を訪れる予定の方は下記の日程を参考に、サッカー観戦も楽しんでみてはいかがでしょうか？

- ・ 3月6日～5月8日 カップ戦
- ・ 5月15日～7月10日 前期リーグ
- ・ 8月24日～11月9日 後期リーグ
- ・ プレーオフ後、11月27日、12月4日にチャンピオンシップ開催

Kリーグの情報はまだまだ少ないので、観戦された方のご報告をお待ちしています。

それでは、今年も日韓サッカーへのサポートよろしくお願いします！

○ 「一つの思い」 ————— 会員：太田道子

第二次大戦が終わってから、私は東京に住んでいた。

1950年から55年まで、東京には「都立」の朝鮮人学校があった。それまで朝鮮人によって自主的に設立・運営されていた学校が占領軍の命令によって閉鎖されるところを、東京では都の監督下に置き、日本人教員によって監視させたのだ。私は知人を通して父兄に懇請され、「怖いところ」と言われていたその学校の教員になった。

それは正に初めての異文化体験であり、驚きの連続だった。しかし全く拒否感はなかった。興味津々、次第に一緒に活動するようになり、多くの友人もできた。

そのころの強烈な経験が私の一生の方向を決めたように思う。

それから生活に追われた30年近くの年月が流れたが、80年代に入って私はついに念願の韓国語を独習し始めた。83年に始めて訪韓した。84年にはNHKでハングル講座が始まった。だがもっと生の韓国文化に触れたい思いがつのり、留学生を探しはじめた。近所にN大学があり幸いそこに来ている韓国人留学生と知り合いになった。

当時は日韓間の交流はほんの一部で、親日派と見られるのを恐れる雰囲気すらあった。彼・彼女らの日本語はたどたどしく、漢字の読み書きに苦労していた。大学では日本人の友人が出

来ないと嘆き、見聞きする日本人の生活習慣や思考方式になじめず、とまどったりしていた。私は手近な相談相手だった。

韓国語を習いたいと彼らに近づいた私が、逆に日本語を教えるはめになった。

論文を書くための資料を一緒に読んだり、文章の校正のために夜が更けるのも忘れた。映画や演劇もよく見た。もちろん飲食も共にした。卒業して帰国した人の家に泊まって、一人でリュックを背に、汽車に乗り船に乗って韓国各地を歩いたりもした。

私は彼らに必要とされている実感があった。彼らの何でも吸収しようとするひたむきさ。そして30も年上の人間を、適度な礼節をもって仲間のように扱ってくれた快さ。日本の若者になり率直さ純粋さがあって、短い期間ではあったが今も思いだすたびにあの充実した日々が忘れられない。

あれから15年。私は母の介護のために彼らと別れて田舎に来た。日韓ネットワークに入会し、再び留学生に出会った。

みんなの日本語の流暢さは驚くばかりである。情報は即時に伝わり、日韓間の距離は急速に縮まった。若い人たちが笑いさざめく姿は見ているだけで楽しい。何という平和な姿！ 曲がりなりにも日本が60年間平和だったお陰だと思う。逆流しないように、いっそうの努力をしなければいけないと思う。



서울 통신

韓国光明市在住 二日市 壮さんのソウル便りです。

韓国 在住生活を基盤として幅広くご活躍されておられるレポートです。
今後とも期待しております。

○ 韓国での「日流」は無理 ----- 韓国光明市在住 会員 二日市 壮 「日韓友情年」は「日帝追求年」にも・・・

今年、2005年は日韓関係にとって、いろいろな面で節目の年。そして空前の冬ソナブーム、「韓流」の中で「日韓友情年」の諸行事が進められている。日本からソウルに来る飛行機は満席、ホテルは満杯、春川や仁寺洞は日本人だらけ。日本と韓国の間はこれまでに近く近くなっている。しかしこれは、あくまで日本からの見方、現象であって、韓国ではほとんどの人が「韓日友情年」すら知らない。KBS も1月から冬ソナの再放送を始めた。視聴率がいい。でも日本の主婦たちが家族を放ったらかしにし目の色を変えて韓国人の「ヨンさま」に殺到する姿に、日本の家庭や社会はいったいどうなっているのかと、韓国人たちはいぶかっている。日韓の「接近」は一方的に日本が韓国に接近しているだけで、韓国の日本に対する距離はほとんど変わっていないのが現実だ。日本での「韓流」に対する韓国での「日流」は、とても起こりそうにない。

1月17日、1965年の日韓基本条約締結に至る一連の日韓外交交渉を記録した外交文書5点が公開された。市民団体の公開請求に対して、ソウル行政裁判所が公開を命じる判決を出したためだ。これによって日本による強制動員の被害者に対しては韓国政府が責任を持って補償すると日本政府に約束していたことが明らかになった。韓国政府は2月1日から被害者や遺族からの被害受け付けを始め、個別審査のうえ、補償金を払うことにしている。金額などは決まっていないが、財源について与党ウリ党は、日

韓基本条約締結によって直接間接に利益を得た大企業に拠出させ、一般国民からも寄付を募る計画だ。しかしこの外交文書によると、当時、日本側はそれでも日本側に賠償責任が問われることを懸念していた。また最近ソウルを訪れた村山富市元首相は「日本には強制連行に対して賠償をする道義的責任があり、ドイツがしたようにいかなる形でも支払うべきだ」と発言している。

前回、お伝えした過去史究明法は、野党ハンナラ党の抵抗で、去年秋の通常国会では成立しなかったが、与党ウリ党はぜがひでも成立をはかっている。すでに施行されている親日究明法の改正作業では、「親日」という表現は現在に結びつきかねないとして削られる方向だが、これらの法律ができることによって、日本統治時代の過去の事件が次々に白日の元にさらされるわけで、日韓友情年は「日帝による悪逆非道をあばく年」になりかねない。

もうひとつ注目を集めているのが過去の軍事政権下に KCIA＝韓国中央情報部が犯した数々の悪行の真相を明らかにしようという国家情報院の過去事件真相究明発展委員会の発足だ。これは KCIA の後身の現在の国家情報院が設けたもので、過去の権威を否定しようとする盧武鉉政権のもととはいえ、その組織自体が調べることに限界があるとする向きもあるが、ここでしか調べようがない事柄があまりにも多いため、「では、やらせてみようか」という空気だ。この委員会が優先的に調査をすると発表したのは、ミ

ヤンマー沖での大韓航空機爆破事件など7件。金大中氏拉致事件を除いては、日本とは直接関係はなさそうだが、7件のうち5件が朴正熙政権時代に起きているだけに、故朴大統領の長女の朴槿恵氏がハンナラ党代表の座を降りざるをえなくなるかもしれない。

さて以前、この欄でお伝えした首都をいまのソウルから忠清南道に移転させようという新行政首都建設促進特別法は「国民投票などにかねなければ憲法違反だ」とする判決が去年10月21日、憲法裁判所でも出された。去年5月、大統領弾劾は無効の判決を出した憲裁だが、今回は盧武鉉政権にお灸（きゅう）をすえた感がある。しかし政府与党はこれにめげず、大統領府、外交通商部、国防部を除いたほとんどの省庁を、忠清南道公州市と燕岐（ヨンギ）郡に移転させる計画で、近く行政都市建設庁を新設して07年に着工することにしており、ソウル市やハンナラ党との間でまた一波乱がありそう。

日本から韓国に来る人へのお勧め。▽ソウル市が進めている清溪川（チョンゲチョン）復元事業が形を現しはじめたので、ぜひ見学を。朝鮮王朝時代にあった古い川を復元して都心に水

辺を作るこの事業は、川の上を覆っていた道路と上の高架道路の撤去が終わり今年10月の完成を目指して全容が見えてきた。▽高速鉄道 KTX は空いていて、予約なしでいつでも乗れる▽韓国鉄道公社のソウルと周辺を結ぶ首都圏電鉄が南に50キロ、忠清南道天安（チョナン）市まで延伸運転されるようになった。これに乗って天安まで行き、独立記念館を訪ね「日帝館」を見るのはいかが。韓国人が日本をどう見ているかが、よく分かる。▽同じようにソウルの西大門刑務所跡でも同じことが感じられるはずだ。愛知万博の開催は、韓国ではまだほとんど知られていない。しかし期間中、韓国人に対するビザ免除、3カ月までの滞在が認められ、釜山―名古屋間に JAL・KAL の1日4往復の共同運航が発表されたり、ウォンも高くなっていることなどで、「日流」は無理としても、今年はかなり数の韓国人が名古屋を訪れることは間違いない。この人たちに日本びいきになってもらって、韓国で声を大にしてもらいたいのだが……。



◇お知らせ・紹介

この欄は、会員の皆さんへ各種ニュースや1～3ヵ月先のイベントのお知らせや、その他もろもろの紹介をしていきます。会員の皆さんからの情報も待っています。

1) 田中宏先生を囲む学習会

「ニューカマーとオールドカマーの教育 ―名古屋韓国学校の実践から見えたもの―」

これまでの日本社会では、在日コリアンの民族教育と、政治的な問題を含めて語られることが多かった。名古屋韓国学校では、永住しているコリアンとニューカマーのコリアン、そして日本人も対象としている。立場の異なるコリアンの子供と一緒に学ぶオリニ学級（児童班）が開催されており、また、在日コリアンの民族文化継承の活動や日本人への韓国語講座も長く続けられている。今回の学習会では、同校学校長を講師に迎え、お話を聞く

- ◆2月18日（金）19：00～21：00
- ◆名古屋働く人の家（名城線「伝馬町」）

- ◆講師 尹大辰氏（名古屋韓国学校校長）
- ◆参加費 資料代として500円

★申込み・問 同会 TEL 052—762—5186
E-mail tanakakakomu@hotmail.com
<http://www.geocities.jp/tanakakakomu/>

また、ここに記載できなかった情報や最新情報は当会のホームページ（表紙参照）やメールマガジンなどでどんどん紹介していきますので楽しみにして下さい。

編集後記

(2005/1/29)

会報 No. 28 をお届けします。

暖冬かなと思っていましたが、やっぱり冬らしい冬になってきました。今年はいよいよ万博の年です。中部新国際空港もまもなく開港します。韓国からの旅行者を含め多くの外国人がやって来ると思います。今年は東海地方中心で日韓交流が活発化していく予感がします。日韓市民ネットワーク・なごやの日韓交流もますます飛躍するように祈ります。

池貴己子さんのイラストは、NHK ラジオ講座 1995 年度から、韓国の古典を題材としたものです。

編集：早川 潤 〒472-0002 知立市来迎寺町木ノ根田 10-4
TEL/FAX 0566-82-5466 MAIL junhykw@pop12.odn.ne.jp